

エイプレイス赤羽 運営推進会議第2部 2026.9.25



在宅の限界ってどこだろう？

エイプレイスが提供している定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスは「在宅の最後の砦」なんて言われることもありますが本当なんですか？

定期巡回があれば在宅は絶対大丈夫？そんなことはありません。

本日は多職種の皆様がいらっしゃるのでそれぞれの立場からの情報などを後ほど聞いてみたいと思います。（もちろん言える範囲で結構です）

●さすがに在宅が無理だったケース

●これからの北区の地域包括ケア、どういう事ができればよいか（難しいけど・・・）



↑↑↑このあたりを少し話せたら超嬉しいです

それでは始めていきましょう！

「在宅の限界」は、介護度だけで決まるものではありません。実際には**本人・家族・医療・介護サービス・住環境・地域資源**が複雑に絡み合っています。皆様も高齢者に携わっていると、「まだ在宅でいける！」「もう限界だ！」という場面を多く見ると思います。

介護ってやった事ないし家族じゃ無理

歩けなくなったら無理よね？

私が面倒みるから大丈夫！

なんでも介護保険がやってくれるでしょ？

最近はお家でも看れるって聞いたぞ

高級老人ホームはホテルみたいだって！ならすぐにでも行きたい！

さっそくですが
「これはさすがに無理だった」
ケース、簡単に聞いても良いです
か？（いえる範囲でももちろんOKで
す！）



エイプ
レイスが考
える

在宅を続けるのにとにかくにも大事な
は……

本人の価値観。
これが一番重要です。 なぜなら…

「多少危険でも家にいたい」という人もいます。
一方で仮に要介護2でも「施設が安心でいいわ」という人もいます。

介護的・医学的な正解と
「本人の人生の正解」は違うからです。

その上で一般的な限界を見ていきたいと思います。

私が介護を始めた頃は良く聞いた「もう在宅無理だよ」は確実に変化しています。

限界の種類

①身体機能の限界

寝たきり 全介助 経管栄養 尿カテーテル ス
トマ 在宅酸素 吸引など

今の時代、実はこれらが即「在宅絶対無理！」とはなりません。

24時間の定期巡回サービス、訪問看護、訪問診療があれば継続できるケースは多くあります。

身体機能よりも他の要素が限界を作ることが多いです。

私が介護を始めた頃は良く聞いた「もう在宅無理だよ」は確実に変化しています。

②医療の限界の拡大

在宅点滴 麻薬管理 在宅酸素 在宅看取り は可能
！！

医療行為が増えるほど在宅が難しくなると思われますが実は最近はかなり在宅でもできる処置が増えています。

※急変時に必要な処置を「大病院だから必ずできる」わけではありません。情報の拡散により、高齢者治療の限界の知識が広がり「穏やかな看取りの受け入れ」というものが少しずつ浸透してきています。

よくよく人生会議（ACP）などで話しておく必要が出てきました。

③住宅環境

エレベーターなし5階 狭いトイレ ベッドが置けない
段差だらけ 夏冬の温度管理ができない

サービスを増やしても環境そのものが介護できないケースがあります。

④ 認知症の限界

火をつける 外へ出てしまう 他人の家に入る 夜中に何十回も起きる 家族への暴力 介護拒否

実はこちらが在宅を難しくすることが多いです。
これはサービスを増やしても対応できない場合があります。
特に「安全を確保できない」ここが一つの境界になります。

⑤ 家族の限界

夜眠れない 仕事を辞めた 介護うつ 老老介護 共倒れ

介護サービスにつながっていればまだ良いですがそうでない場合は見落としがちです。利用者本人ではなく「**家族が壊れるかも**」これが経験上、在宅終了の理由になることも多いです。本人が在宅希望でも家族が限界なら施設入所を検討すべきです。（と私は思います。）

この状態は介護サービスが始まる前に起きている事も・・・

なぜなら・・・

家族の不安や罪悪感：「施設に入れるのはかわいそう」という思いから、**限界**を超えて介護を続けてしまう。

介護者の生活の喪失：趣味や仕事、人間関係を失い、介護だけの生活になる。

予測と準備の不足：急変や看取り、認知症の進行について事前に話し合えていないと、いざという時に在宅継続が難しくなる。

介護者の「もう無理」と言えない文化：限界を口にできず、ある日突然介護が破綻することがあります。

つまり・・・

ここに気づける・・・はかなり大袈裟ですが少しでもキャッチできるのは地域の力かもしれません。

ここまでで感じる事は・・・

おとなりさんや商店も含む多職種で顔の見える関係で情報を共有できる声掛けが必要

つまり・・・ 在宅の限界とは
「本人が生活できる限界」ではなく
「支えるチーム(地域)が支え続けられる限界」
なのかもしれません。

そして・・・

「在宅の限界を先延ばしにする」のではなく、限界を予測して、チームで乗り越える仕組みをつくること

が必要な気がしています。

皆様のご意見を軽くお聞きして終わりたいと思います！



以上で第2部は終わりです。
ありがとうございました！